

# 暗唱のすすめ 百人一首編⑦

あき

ありあけ つき

み

三十一

朝ぼらけ 有明の月と 見るまでに

よしの さと

ふ

しらゆき

吉野の里に 降れる白雪

さかのうえのこれのり



坂上 是則

やまがわ

かせ

三十二

山川に 風のかけたる しがらみは

なが

エ

もみじ

流れもあへぬ 紅葉なりけり

はるみちのつらき



春道列樹

ひかり

はる ひ

三十三

ひさかたの 光のどけき 春の日に

しずこころ

はな ち

ン

静心なく 花の散るらむ

【静心】しずこころ

静かな心。落ち着いた心。しず  
まった気持ち。

「静心」は、「ず」を強く発音しま  
す。



きのともり

紀友則

たれ

し ひと

ン たかきこ

三十四

誰をかも 知る人にせむ 高砂の

まつ おかし

とも

松も 昔の 友ならなくに

ふじわらのおきかせ



藤原 興風

ひと

こころ し

三十五

人はいさ 心も知らず ふるさとは

はな おかし

か

オイ

花ぞ 昔の 香にほひける



きのつらゆき

紀貫之